第６学年　国語科学習指導案

研究主題

どの子も自信をもって書くことができる指導法の工夫
～モデル文や文集「練馬の子ら」を活用して～

めざす児童像

○目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考え、自分の考えが伝わるように書くことのできる子
○日常生活や他教科の中でも、文種ごとの書き方が分かり積極的に書こうとする子
○書いたことを発表し合い、友達からの助言を受けて、表現の効果などについて更に工夫したり推敲したりできる子

１．単元名　自分を見つめ直して

２．教材名　「随筆を書こう」

３．単元の目標

◎効果的な表現を使って随筆を書こうとする。【国語への関心・意欲・態度】
◎経験や事実から、自分の感想をまとめ、全体の構成の効果を考えながら書くことができる。【書くこと】
○随筆という文章様式があることを理解し、言葉についての関心をもつことができる。【言語事項】

４．評価規準

国語への関心・意欲・態度	・効果的な表現を使って随筆を書こうとするとともに、それを通してこれからの生き方を考えようとしている。
書くこと	・自分の考えを明確にして、全体の構成の効果を考え、事実と感想を書き分けながら随筆を書いている。
言語事項	・語感・言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもっている。

５．単元について

（１）児童の実態　　意識調査（５学年 96 名→６学年 96 名）

設問	回答項目	平成２４年5月	平成２５年2月	平成２５年7月
国語の勉強は好きですか。	好き	18 人	20 人	22 人
	まあまあ好き	43 人	47 人	48 人
	あまり好きではない	35 人	32 人	17 人
本を読むことは好きですか。	好き	60 人	64 人	43 人
	まあまあ好き	24 人	22 人	33 人
	あまり好きではない	12 人	10 人	8 人
書くことは好きですか。	好き	30 人	32 人	38 人
	まあまあ好き	48 人	50 人	45 人
	あまり好きではない	21 人	14 人	13 人
書くことの中で一番好きなことはなんですか。	作文	25 人	18 人	23 人
	日記	25 人	15 人	25 人
	詩	6 人	9 人	12 人
	お話づくり	33 人	27 人	21 人
	その他	10 人	15 人	15 人

◆考察

昨年度と今年度のアンケート結果を比較すると、「書くことが好き」という児童が増え、「あまり好きではない」という児童が減っている。全体的には、以前と比べてやや肯定的な傾向が見られる。

理由として、１０分間作文の時間を使って、書くことの楽しさを味わわせたり、短歌や俳句、詩などの様々な表現形式を経験させたりしたことがあげられる。又、児童の身近な話題から討論会をさせ、そこで出た様々な意見を取り入れて意見文を書く活動をしたことも有効であった。

しかしながら、「書くことがあまり好きではない」という児童も依然としている。これらの児童の理由を聞くと、「文章の始まりや終わり方が分からない。書く内容がまとまらない。字が汚くなってしまう。」等の意見が出た。現在、これらの対策として「作文スキル」を活用し、様々な書き方のこつや技を習得している段階である。また、丁寧に書くために評価の観点を提示し、一人一人の評価を行っている。今後は視写や聴写を取り入れることで、丁寧な文字を書くことができるようにしていく。

◆学年の児童の実態

本学年の児童の実態として、年度当初に強く感じたことは作文嫌いが多いということである。作文を書く以前に、文字を丁寧に書いたり漢字を覚えたりすることを苦手とする児童が多いことも気になっている。

そういった実態を踏まえ、まずは「楽しく書くこと」を大切に指導したいと考えた。１０分間

作文を「面白作文」と題して討論を交えながら意見文を書くようにした。様々な作文を書く際に、モデル文を提示し、作文の書き方を学ぶことができるようにした。それに伴い、国語に限らずノートや新聞等に丁寧かつ分かりやすくまとめる力が身に付いてきた児童も多い。何かを書かせるときには、必ず「ポイント」と題して観点を提示するようにしたことも効果があった。

読書に関しては、全体に本が好きな子が多く、休み時間も本を読んでいる。しかし、随筆については、今までほとんど読んだ経験がない。

（２）単元設定の理由

児童はこれまでに、第５学年の「物語を作ろう」において、構成や表現の工夫に重点を置き、既習教材や例文のよさに気付いて、自分なりの表現をしていく学習をしてきた。また、第６学年の「『平和』について考える」では、自分の意見が説得力をもつように、具体例や資料を集めたり意見を明確に伝えるために文章全体の構成の効果を考えたりして意見文を書くことを学習した。本単元では、これらで学んだ「構成や表現の工夫」「自分の考えを明確にするための工夫」などを生かしながら、随筆を書くことができるようにする。

そのために、随筆らしい書き方や表現技法、随筆の基本的な構成に着目させることで作文の技術向上を目指す。

また、本単元は小学校最後の「書くこと」の単元であり、これまで小学校で学習してきた文学的な文章や説明的な文章の表現力などを活用しながら、自分の考えをまとめさせたい。また、出来事や経験などを通して自分の考えを随筆にまとめ、友達同士で読み合うことで、様々な考え方に触れてほしい。そうすることで、自分自身の考えを広げ深めるとともに、ものの見方や生き方を見つめ直す機会としたい。

（３）学習材について

随筆とは、「身近に起こったこと、見たことや聞いたこと、経験したことなどを他の人にも分かるように描写したうえで、感想や感慨、自分にとっての意味などをまとめたもの（学習指導要領国語解説編より）」である。

本学年の児童は、今までに日記文や行事作文などで文章を書くことに慣れてきた。しかし、豊かな表現や書き方をしっかりと習得している児童は少ない。そこで、随筆を書くことにより表現方法の工夫や文章の構成を身に付けさせることにした。

６．主題に迫るための指導の工夫

（１）教師作成のモデル文

随筆とは、自分の心に留まったことを自由な文体で書く文章である。随筆には、様々な書きぶり、内容がある。そのため、モデル文一つでは補いきれないところもある。本単元では、あくまでも様々な書きぶりの中から、小学生でもこれくらいなら書けるであろうというものを想定し、モデル文を設定した。

教科書に記載されている文章は、文章の構成や内容等が、児童の実態に沿わないため、モデル文にはふさわしくないと考え、次の二点を取り入れて、児童の実態にあわせてモデル文を教師が作成した。

第一に、教師作成の随筆文（モデル文）に加えて、随筆と同じ内容の日記を作成した。児童が、

随筆と日記の文章を読み比べることで､随筆特有の表現を知り､文章をより豊かに表現できると、実感をもって理解できると考えた。

第二に、表現方法を工夫した。教科書に記載されている文章は、カギ括弧で特定の言葉をかこって強調したり、擬音を用いたりしている。しかし、その他には、随筆でよく用いられる、体言止めや倒置法といった表現が含まれていなかった。そこで、本単元で用いるモデル文には、教科書では用いられていないような、随筆特有の表現方法を意図的に取り入れた。そうすることで、児童がさまざまな表現方法を学び、文章を書く際により豊かな表現ができると考えた。

（２）共通教材で文章を書く際に使用する日記

共通教材として、随筆を書かせる際に、一番困難であったのは、書かせる内容を統一することである。なぜならば、同じ経験をしたとしても、全員が同じ気持ちになるとは限らないからである。そこで今回は、共通教材で書く内容を統一するために、児童全員に教師作成の日記を渡し、モデル文から学んだ表現方法を用いて、随筆に書き換えることとした。こうすることで、共通教材で書く内容を統一することができ、指導をする際に内容ではなく、表現方法に焦点を当てやすいと考えた。

（３）話し合い

本単元では、書き上がった随筆を、子供同士で交流する時間を設けた。書き上がったらそれで終わりということではなく、出来上がった文章を自分や友達が確認することによって、文章のつながりや言葉遣いを見直すことができると共に、子供同士でも様々な感じ方、考え方をする人がいると知り、感性の多様性を肯定的に受けとめ、楽しむ心を育てたいと考えた。

（４）学習意欲を高めるための工夫

本来、子供には随筆を書きたいという意欲や必要感はない。しかしこの時期は、ちょっと大人っぽいもの、かっこいい表現にあこがれる時期でもある。その気持ちを使って、学習のめあてを「ちょっとかっこいい表現を使って随筆を書こう」とした。

児童の､今までの読書経験には差がある｡特に､随筆というジャンルの本を読む児童は少ない。そこで、本単元で随筆を書くにあたって、事前に、図書館から様々な随筆を取り寄せ、子供たちに読ませた。そうすることで、随筆の多様性に触れ、自分の感性に合った書きぶり、筆者の考えに出会わせ、随筆のおもしろさを知り、「ぼくも・わたしも、こんなかっこいい・おしゃれな文章を書いてみたい！」という意欲につなげるようにした。

７．**指導計画**（国語全８時間）

<table>
<tr><th>次</th><th>時</th><th>学習活動</th><th>☆手だて　○指導上の留意点　◆評価　【方法】</th></tr>
<tr><td rowspan="1">1
次</td><td>第1時
（1組本時）</td><td colspan="2">ちょっとかっこいい表現を使って随筆を書こう

モデル文での学習</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>○「シラス」のモデル文と日記文を比較し、気付いたことを話し合う。
・構成や表現方法（倒置・擬態語・擬音語・比喩・問いかけ）や随筆の特徴（体験・見聞・感慨・考え・感想・自分にとっての意味）を読み取る。</td><td>☆モデル文と日記文を配布し、拡大図を掲示し傍線を引いたり印を付けたりする。
○児童が見付けた特徴で不十分である部分は教師が補い、表現方法を押さえるようにする。
＜表現方法の特徴＞
「～なのである。」「私にとって～であった。」など。
＜随筆の構成の特徴＞
事実と回想を書く。感じたことを書く。文章の終わりを工夫する。
◆構成や表現方法の工夫に気付くことができている。【ワークシート】</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2
次</td><td>第2時・第3時（2組本時）</td><td colspan="2">共通教材での学習</td></tr>
<tr><td></td><td>○「共通教材」の「昨日のこと」を随筆に書き換える。
・書き出しや表現方法の工夫、随筆の特徴を考えながら書く。
・書く途中で上手に書くことのできた表現や困ったことを話し合う。</td><td>☆元の文の拡大図を掲示する。
○モデル文を参考にしながら、使いたい表現方法で書くようにする。

◆モデル文にそって書くことができている。【ワークシート】</td></tr>
<tr><td></td><td>第4時（3組本時）</td><td>○書き上げた「共通教材」を交流し、表現方法を深める。
・友達の書いた随筆を読み合い、よい箇所にシールを貼る。
・表現技法ごとに発表する。
・教師が作成した随筆文を話し合う中で、よりよい表現を考える。</td><td>☆シールを用意する。
○友達の随筆で、モデル文で学んだ表現方法を効果的に使っているところや真似したい表現に気付かせる。
○表現技法ごとに紹介することで、同じ文章でも違う表し方ができることに気付かせる。
◆表現方法を交流し、深めることができている。【ワークシート】</td></tr>
</table>

3次	第5時	個別教材での学習 ○イメージマップを使って「個別教材」の題材を決める。 ・経験や見聞したことから題材を決める。 ・何故か忘れられない一コマ、その時の様子や情景などから思ったこと、自分にとっての意味付けなどをメモして整理する。	☆イメージマップの例を掲示する。 ○６年間の思い出や身近な出来事を振り返るようにする。 ○自分にとっての意味や感慨、回想を書くために、メモ書きをする。 ◆イメージマップで題材を考えることができている。【ノート】
	第6時	○「共通教材」で学習したことを生かして、随筆を書くための準備をする。 ・書き出しの工夫や段落を考え、文章全体の構成を考え表にする。	○構成表を使って自分の考えや感慨が明確になるように、文章の構成を考えるようにする。 ◆自分の考えが明確になるように文章全体の構成を考えることができている。【ノート】
	第7時	○随筆を書く。 ・自分の考えや感慨が読み手によく伝わるように表現を工夫しながら随筆を書く。 ・表現の工夫の仕方について確認をする。 ・工夫した表現方法を入れて随筆を書く。	○１次で使用したモデル文や共通教材を掲示する。 ◆共通教材で学習した内容を生かしながら、随筆を書くことができている。【ワークシート】
	第8時	○随筆をグループで読み合い、感想を話し合う。 ・班で随筆を読み合いながら、表現方法を効果的に使っている箇所などを話し合う。	○友達の随筆について、書き手の考えや感じ方、表現の工夫を中心に感想を出し合ったり、自分の考えを述べたりするよう伝える。 ◆表現方法を効果的に使っている箇所などを話し合うことができている。【ワークシート】

８．本時（１／８）　　６年１組　指導者　渡壁正行

（１）目標

◎随筆文の構成や表現方法が分かる。

（２）本時の展開

	学習活動	☆手だて ○指導上の留意点 ◆評価【方法】
導入	ちょっとかっこいい表現を使って随筆を書こう １．随筆とは何かを振り返る。 日記文とモデル文を比較して、随筆の書き方を学ぼう。	○今までの随筆から分かったことを振り返らせる。
展開	２．モデル文（随筆文）と日記文を比較する。 ・表現方法を比較する。 ＜表現の工夫＞ 倒置・体言止め・擬態語・擬音語・比喩・問いかけ・繰り返し・随筆らしい書き方　等 ＜随筆の構成＞ 始まり方（書き出し）・体験・思い（感慨・感想・意見）・場面の数　等 ・構成を比較する。（書き出し・体験・思い）	☆モデル文の拡大版を掲示し、比較しやすいようにする。 ☆おしゃれな随筆の書き方のポイントを掲示し復習することで、比較しやすいようにする。 ☆モデル文に傍線を引いたり、色付けをしたりして、表現の工夫や構成を明確に印象付ける。 ○日記文と随筆文で、同じ内容がどの様な違う表現方法で表されているかに気付かせる。（比較する。） ○なかなか作業が進まない児童には、教師が例を示したり、隣同士で話し合わせたりする。 ○書き出しや体験、思いが書かれている所を押さえさせる。 ◆構成や表現方法の工夫に気付くことができている。【ワークシート】
まとめ	３．分かったことや気付いたことを発表し、話し合う。 ・全体で話し合う。 ・日記文と随筆文を音読する。	○本時の学習を話し合うことで、随筆の書き方を振り返る。 ○日記文と随筆文を段落ごとに音読することで、違いを表現の違いを意識づける。 ◆随筆の表現や構成について分かったことを話し合っている。【発言】

８．本時（３／８）　　６年２組　指導者　大倉加奈子

（１）目標

◎モデル文で学習したことを生かして、日記文（共通教材「昨日のこと」）をもとに、随筆文を書くことができる。

（２）本時の展開

	学習活動	☆手だて ○指導上の留意点　◆評価【方法】
導入	１．前時までの学習を振り返る。 ・随筆文の表現方法や構成の特徴を復習する。 例：昨日～をした。→それは昨日のことだった。 ２．共通教材（日記文「昨日のこと」）を読む。 ・教師の範読を聞く。	☆モデル文の拡大図を掲示する。 ○短冊を操作しながら、表現方法を復習する。 ☆日記文「昨日のこと」を配布し拡大図を掲示する。 ○日記文「昨日のこと」は、表現方法を工夫し、随筆にすることで、より豊かな文章にできることを確認する。
展開	ちょっとかっこいい表現を使って、日記文を随筆文に書き換えよう ２．共通教材　日記文「昨日のこと」の第３段落を全員で随筆に書き換える。 ・モデル文を参考にして、日記文を随筆文に書き換える方法を確認する。 ・会話文は、日記文以外の言葉も、書き加えてよいことを確認する。 ３．第４段落以降を、個人で随筆に書き換える。 ４．随筆文の文章のつながりについて確認する。 ・第４段落の回想シーンの前後で、話がつながっていることを確認する。	☆ワークシートの拡大図を掲示する。 ○一文ずつ、モデル文と日記文を照らし合わせながら、書き換えを進める。 ○机間指導をし、進まない児童には、教師作成の随筆文に沿って書かせる。 ◆モデル文で学習したことを生かして、随筆文を書いている。【ワークシート】 ☆黒板に掲示してある拡大図を操作しながら、段落間のつながりを確認する。 ○第３段落と第５段落の間に回想シーンがあることによって、普段の何気ない場面での気付きが、読者に伝わることをおさえる。
まとめ	５．書き上げた文章を話し合う。 ・全体で話し合う。	○日記文の同じ部分の書き換えを扱い、一つの文でも様々な表現方法があることが分かるようにする。

８．本時（４／８）　　６年３組　指導者　関谷宣明

（１）目標

◎書き上げた共通教材を話し合い、表現方法を深めることができる。

（２）本時の展開

	学習活動	☆手だて〇指導上の留意点　◆評価【方法】
導入	１．本時のめあてを知る。 友達の随筆から学ぼう　～表現方法を深めよう～	☆金色シールを配布することで意欲を高め、書き方の工夫が分かりやすいようにする。
展開	２.友達の書き上げた共通教材を交流する。 ・真似したいところや感心したところにシールを貼る。 ・シールを貼ったところの表現方法を発表する。 ３．教師作成の文章を読み、よい点を発表したり、よりよい表現方法を考えたりする。	〇表現方法や構成の仕方に着目させる。 ◆随筆らしい表現に気付き、シールを貼ることができる。【ワークシート】 ☆短冊に書き、掲示することでいつでも見ることができるようにする。 〇同じ文章ごとに発表させることで、同じ文章でも違った表現方法があることに気付かせる。 〇よりよい表現になるよう、学習した表現方法を発表するようにさせる。また、もっとこうした方がよいという意見を出すようにさせる。 ◆表現方法を深めている。【ワークシート】
まとめ	４．共通教材で随筆を書いた感想を話し合う。 ・困ったことや上手に書くことができたことなど発表する。	〇困ったことや上手に書くことができたことなど、個別教材を書く時の意欲付けになるようにする。